

中国の大気汚染と注目される日本の対策グッズ

上海駐在員事務所

秘書 魏 小暉

最近日本でも話題になっている PM (Particulate Matter) 2.5 による大気汚染は、中国でも大変深刻な問題として捉えられています。中国では特に冬場にかけて北京を含む華北地区において大気汚染が酷くなる傾向があり、昨年末から今年の初めにかけて、現地のテレビにおいても霧にかすむ北京市内の映像が連日報道されるようになりました。

実はこのような大気汚染は最近始まったものではありません。以前から秋から冬の時期になると霧がかかった日が続くことがよくありましたが、現地の天気予報では「霧」という予報のみを発表していました。しかし、2011年11月に北京のアメリカ大使館が独自に PM2.5 の数値を公表し始めたのを契機に、中国当局も PM2.5 の数値を測定・公表を始めました。

中国政府は、大気汚染の拡大を防ぐため、2012年2月には「環境空気品質標準」を制定し、2012年10月までに中国の74都市で496の観測ポイントを設置しましたが、これまでのところ、これといった有効な対策は打ち出せていません。

こうした事態を受け、今年の冬は特にマスクを着用したり、空気清浄機を購入したりといった自衛手段を採る市民が目立ちました。中国では日本ほどマスクをする習慣はありませんが、薬局では一時期マスクが売り切れとなる状況となりました。マスクにも様々な種類がありますが、中国ではスリーエム社の N95 微粒子用マスクのほか、国産ブランドでは「緑盾」の商品が売れているようです。マスク以外の対策グッズでは空気清浄器(写真1)を購入する人も増えており、特に日系メーカーの製品の人気が高く、我が家でも1台購入しました。



店頭に並ぶ日系メーカーの空気清浄器 (写真 1)

中国政府は今後さらに観測ポイントを増やすとともに、大気汚染の拡大防止を図るため新たな法律の制定を検討していますが、成立するまでにはもう少し時間がかかりそうです。いずれにせよ、当面は自己防衛するしか方法はありませんが、併せて、私たち一人ひとりが大気汚染を悪化させないよう意識を高めていくことが重要であることは言うまでもありません。

天気の良い日には澄み渡った青空（写真2）が見られるのが当たり前になる日が来ることを願ってやみません。



大気汚染が少ない日の青空が広がる上海市内（写真2）

以上